

中部版

和泉の自然

— IZUMI no Shizen —



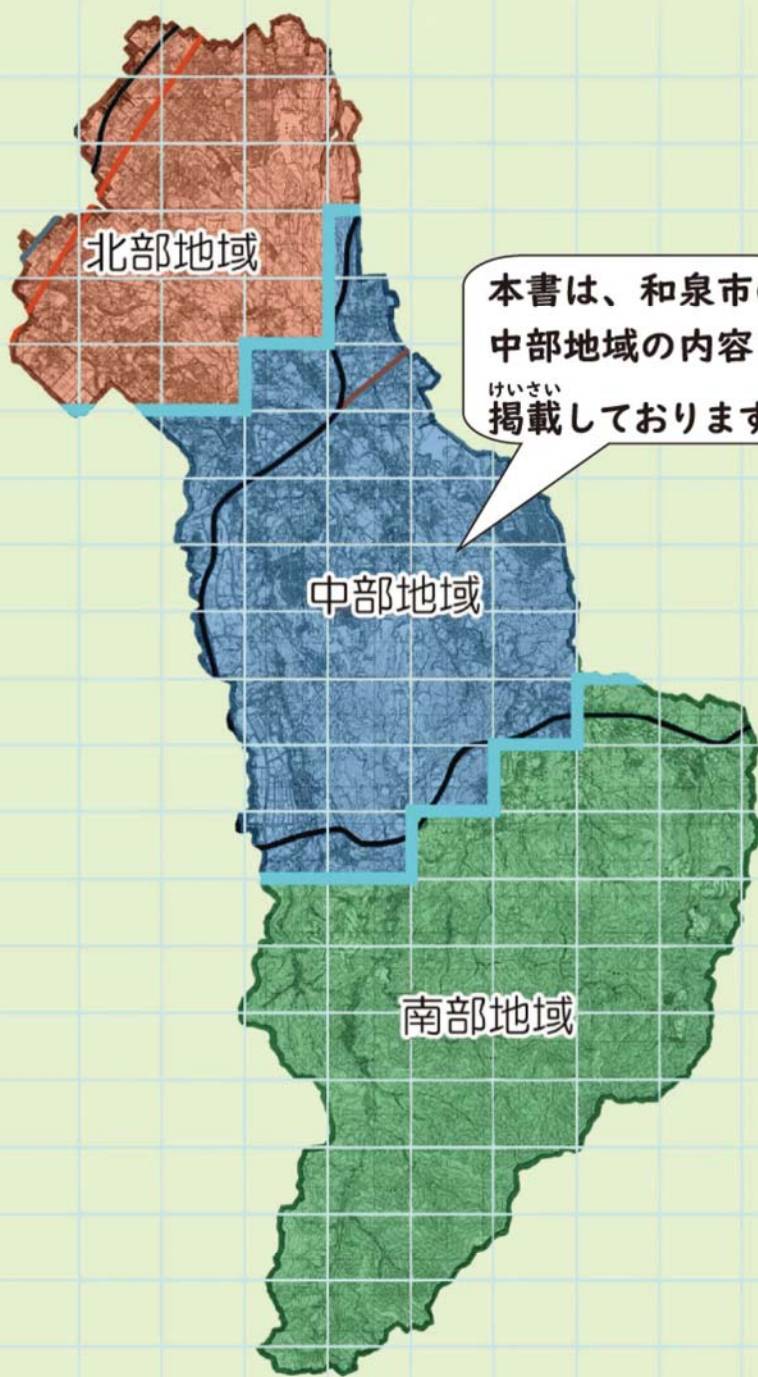
しぜんかんきょうちょうさ

自然環境調査

平成 20 (2008) 年～令和 4 (2022) 年

ほんしよ

本書について



北部地域

本書は、和泉市の
中部地域の内容を
けいさい
掲載しております。

中部地域

南部地域

和泉市では平成 20 年度から市内の自然環境を調べています。平成 25 年度からは一辺 1 km の四角形（メッシュ）で市内を区切り、その中の生き物を順に調べています。みなさんもぜひ身近な生き物を調べてみましょう。

中部地域の自然環境

和泉市は南北に槇尾川が流れていて、川の中や河川敷などには水鳥や水辺の植物、昆虫などがみられます。

中部地域には市街地が広がりますが、松尾寺や光明池など自然の残された場所もあり、中でも松尾寺周辺には和泉市ではなかなかみられなくなったシイの林やたくさんのため池があるため、キンランやサラサヤンマなどの絶滅危惧種も生息しており、この地域で最も豊かな自然が残された大切な場所になっています。

光明池は大阪府最大の貯水量を誇る農業用ため池で、大阪みどりの百選の一つにも選ばれていて、水草も多く、絶滅危惧種のタチカモメヅルや青いアカトンボのナニワトンボなどがみられ、冬にはカモの仲間やカンムリカイツブリなど、



シシガシラ（シシガシラ科）



キンラン（ラン科）



ムラサキケマン（ケシ科）



ムラサキシジミ（シジミチョウ科）

みずとり
多くの水鳥も見られます。

これ以外の場所は広く住宅地ですが、田
畑や川沿いの緑地、社寺林もあるため、街中
でも暮らせるツバメやキジバト、クマゼミ、
アオスジアゲハなどだけでなく、林や森に
暮らすムラサキシジミなどの生き物も見ら
れます。ただ、セイタカアワダチソウや特定
外来生物のナルトサワギクなどが増えまし
た。



アカタテハ (タテハチョウ科)



ホシホウジャク (スズメガ科)



ニワハシヨウ (ハシヨウ科)



イソシギ (シギ科)



オオタカ (タカ科)



ヨシガモ (カモ科)

分類	市内全域のデータ		中部地域のデータ	
哺乳類	10 科	14 種	6 科	8 種
鳥類	43 科	122 種	35 科	82 種
両生類	7 科	12 種	5 科	9 種
爬虫類	9 科	15 種	8 科	11 種
昆虫類	170 科	799 種	86 科	318 種
植物	170 科	1470 種	148 科	916 種
合計	409 科	2432 種	288 科	1344 種

※このリストは平成 20(2008)年～令和 4(2022)年の調査結果をまとめたものです。



ササユリ (ユリ科)

葉がササに似ていて、初夏にピンクの美しい花を咲かせます。



ホタルブクロ (キキョウ科)

初夏に咲く釣鐘形の花の中にホタルを入れて遊んだことが名前の由来です。



クズ (マメ科)

ツルを地面に伸ばして河原や空き地いっばいに広がり、秋に花を咲かせます。



タチカモメヅル (キョウチクトウ科)

ツルで他の草に絡みつき、夏に対生の葉の付け根に紫の花を咲かせます。



カワヂシャ (オオバコ科)

水辺の植物で、初夏に白くて青い筋のある花を付けます。



ヒメハギ (ヒメハギ科)

明るい乾いた所に生え、春～夏にチョウが翅を広げた形の花を咲かせます。



クサイチゴ (バラ科)

春に白くて大きな花を咲かせ、初夏にできる赤い実はとても美味しいキイチゴの仲間です。



ミズタマソウ (アカバナ科)

夏に木陰で白い小さな花を咲かせ、そのあと水玉がくっついたような丸くて毛の生えた実をつけます。



アオマダラタマムシ (タムムシ科)

とても美しいタムムシの仲間ですが、なかなかみつきりません。



オジロアシナガゾウムシ (ゾウムシ科)

クズという植物にいるパンダのようなゾウムシ。鳥の糞に擬態しています。



トラフシジミ (シジミチョウ科)

翅の裏側にトラのようなしま模様があり、表側は青く光って美しい色をしています。



クロコノマチョウ (タテハチョウ科)

南方系のチョウですが、今では普通種。翅を閉じると枯葉のように見えます。



ナニワトンボ (トンボ科)

絶滅危惧種であり、雄は赤くならず青くなる不思議なアカトンボです。



サラサヤンマ (ヤンマ科)

森の中の低い場所で、時々空中でピタッと止まるような飛び方をします。



ヒメカマキリ (ヒメカマキリ科)

森や林に住む小さなカマキリ。秋に成虫が見られます。翅の先が四角くて翅に斜めの線が目立ちます。



ツチイナゴ (バッタ科)

トノサマバッタに似ていますが、顔に涙を流したような模様があります。成虫で越冬をします。



キジ (キジ科)

日本の国鳥。雄はとても美しいですが、雌は地味な色をしています。



キンクロハジロ (カモ科)

冬鳥。潜って魚や貝を食べます。写真の上が雄で下が雌になり、金色の目をしています。



カンムリカイツブリ (カイツブリ科)

冬鳥(一部留鳥)でカイツブリの仲間です。身体が大きく、広い池や海で潜って魚を食べます。



ミサゴ (ミサゴ科)

魚を専門に食べるタカの仲間なので、足指は前2本後ろ2本に開きます。



アオシギ (シギ科)

冬鳥。谷川などで1羽で忍者のように暮らす鳥なので、なかなか見つけられません。



カワセミ (カワセミ科)

飛び宝石と言われる、とても美しい鳥。水に飛び込んで魚を食べます。



コゲラ (キツツキ科)

日本で一番小さい、スズメくらいの大きさのキツツキ。森や林に住み、冬には街中の公園などにもやっています。



セグロセキレイ (セキレイ科)

水辺に住み、長い尾を上下に振りながらゆっくりと歩いて虫などを食べています。黒い顔に白い眉が特徴です。



ホンダタヌキ (イヌ科)

やこうせい 夜行性でなんでも食べ、いがい まちなか す 意外と街中にも住んでいます。



ニホンアナグマ (イタチ科)

あな ほ すあな つく たて すじ 穴を掘って巣穴を作ります。目のところに縦に黒い筋があります。



ノウサギ (ウサギ科)

やこうせい 夜行性で草や木の葉を食べます。おくびょう 臆病なのでなかなか見ることができません。



トノサマガエル (アカガエル科)

ひとむかしまえ すいでん 一昔前の水田にはたくさんいたカエルですが、さいきん 最近 はとてもすく 少なくなってきています。



シュレーゲルアオガエル (アオガエル科)

に アマガエルに似ていますが、目のところに黒い線がないのが特徴です。



ニホンマムシ (クサリヘビ科)

ゆうめい どくへび 有名な毒蛇で、鎖がつながったような大きな丸い紋が特徴です。



ニホントカゲ (トカゲ科)

こどものとき 子どもの時は尾が青くてしま模様がありますが、おとなになると全身が茶色に変わります。触るとぬめ った感じがします。



ニホンカナヘビ (カナヘビ科)

ニホントカゲに似ていますが、こどももおとなも茶色でかさかさした感じです。尾がからだよりかなり長いのが特徴です。

ホタルを調査しよう



ゲンジボタル(人気種)

5月下旬から数秒間隔でゆっくり明るく光り、比較的美しい川にいるカワナという巻貝を食べます。

ヘイケボタル(希少種)

5月頃からやや弱く約1秒間隔で光り、人里近くの水田の周りや溝などに住む小さな巻貝を食べます。

ヒメボタル(希少種)

チカチカと短い間隔で明るく光り、陸に住む小さな巻貝を食べます。メスは飛べないので住む場所が荒らされると消えてしまうことから、自然環境を調べる目印になっています。

中部のホタルまとめ

榎尾川の泰成橋周辺から北田中町にかけての川沿いや水辺に近い竹林でヒメボタルが見られます。ゲンジボタルは少ないながら川沿いにいます。ヘイケボタルは池や田んぼ周辺の溝などを探せば、見つけられる可能性があります。



平地のヒメボタル：5月中旬に川沿いの竹林でチカチカと光ります



山間部のヒメボタル：7月上旬の深夜に杉林でチカチカと光ります



ヤワゲフロ (フウロソウ科)

ヨーロッパ^{げんさん}原産。春にかわいいピンクの花を咲かせます。



マルバルコウ (ヒルガオ科)

北アメリカ原産。夏から秋に小さなオレンジ色の花を咲かせます。



ナヨクサフジ (マメ科)

ヨーロッパ原産。春に川べりや空き地^{あきち}いっぱい^{いっばい}に花を咲かせます。



特 ナルトサワギク (キク科)

南アフリカ原産。冬でも花をずっと咲かせて、どん^{たね}どん^と種を飛ばします。



特 オオカワヂシャ (オオバコ科)

ヨーロッパ^{みずべ}原産。水辺でカワヂシャより大きくて派手^{はで}な花を咲かせます。



ラミーカミキリ (カミキリムシ科)

東南アジア^{とうなん}原産。パンダのような模様で、カラムシ^{しやうぶつ}という植物を食べます。



アカミミガメ (ヌマガメ科)

北アメリカ原産。ミドリガメとして売られていたものが野生化^{やせいか}しました。



特 アライグマ (アライグマ科)

北アメリカ原産。かわい^{さうぼう}い^{さうぼう}けれ^{さうぼう}どお^{さうぼう}なになると凶暴^{きようぼう}で、野生化して農作物を食い荒らしています。

特：特定外来生物

特 クビアカツヤカミキリ^{ちゅうい}に注意しましょう

クビアカツヤカミキリは、サクラ・モモ・ウメなどのバラ科植物^{しよくぶつ}の大害虫^{がいちゅう}で、移動や飼育等が原則禁止である特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}に指定^{して}されていて、近隣市などでも大問題^{きんりん もんだい}になっています。

和泉市でも、令和3年から市内各地^{かくち}のサクラ、ウメ、スモモなどで発見^{はっけん}され始め、被害^{はじ ひがい}が少しずつ広がっています。

木の幹^{みき}から右^{みぎ}の写真^{しゃしん}のように、うどん^{うどん}のよう^{ようちゅう}な木くず^{きくず}(フラス)が出ていたら、幼虫^{ようちゅう}が木の中^{なか}にいる証拠^{しょうこ}です。クビアカツヤカミキリを見つけても絶対^{ぜったい}に持ち帰^{も かえ}ってはいけません。もし、公園などで発見した場合は、和泉市環境保全課までご連絡ください。



さんこうとしょ 参考図書

大阪府野生生物目録（大阪府）

河川水辺の国勢調査のための生物リスト（国土交通省）

わが国の生態系などに被害を及ぼす恐れのある外来種リスト（環境省）

決定版日本の野鳥 650（平凡社）

日本のトンボ（文一総合出版）

フィールドガイド日本のチョウ（誠文堂新光社）

改訂新版日本の野生植物（平凡社）

日本帰化植物写真図鑑（全農教）

※この資料は500部作成し、一部当たりの単価は97.1円です。



中部版

発行：令和5（2023）年3月
和泉市 環境産業部 環境保全課